

創刊号(平成26年1月)

「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」 会津地方かわら版

会津地方推進本部(福島県会津農林事務所)

平成26年1月27日(月)発行

目次

- 1 新生運動について
- 2 会津地方推進本部について
- 3 会津地方推進本部長のあいさつ
- 4 頑張る農業者の取組紹介
- 5 会津農林事務所からのお知らせ
- 6 今後の行事(イベント)等



「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』 新生運動」について

○趣旨

本県農林水産業・農山漁村が東日本大震災及び原子力災害を乗り越え、将来を担う子供達に「食」と「ふるさと」をしっかり引き継いでいくため、「一人一人が復興に向けて歩いていこう」「ふくしまから新しい流れを創っていこう」という未来への意志を込めたスローガン「ふくしまから はじめよう。」と理念を共有し、生産者自らの積極的な取組はもとより、生産から流通・消費に至る様々な立場の人々が一体となり、その思いと力を一つにして取り組む運動を展開する。

○概要

「いのち」を支え 未来につなぐ 新生ふくしまの『食』と『ふるさと』
の実現



農林漁業者、県民、関係機関・団体等が一体となった運動の展開

食の安全・安心運動

＜安全対策の徹底による食の安全確保＞

- ・農林水産物の検査体制の強化
- ・安全な農林水産物の生産推進

＜消費者の食への安心感の醸成＞

- ・安全確保対策等のわかりやすい情報提供

情報発信運動

＜県内外への情報発信＞

- ・各種媒体による情報発信の強化
- ・頑張る農林漁業者の姿の紹介
- ・消費者や流通業者との交流や理解促進

＜世界へ向けた情報発信＞

- ・情報発信の多言語化
- ・輸出の促進

風評払拭・消費拡大運動

＜消費者の県産農林水産物に対する理解促進＞

- ・検査結果、生産履歴の見える化

＜県産農林水産物の消費拡大と食育の推進＞

- ・消費者による地産地消の推進
- ・学校や公共施設等における利用促進
- ・地域産業6次化の推進や観光産業等との連携

生産再生運動

＜力強い農林水産業の生産体制の確立＞

- ・意欲ある担い手の育成、生産基盤の整備、農地の集積等の推進
- ・森林づくり活動、沿岸漁業再開の推進

＜ふくしまブランドの回復・強化＞

- ・「ふくしまの恵みイレブン」品目の作付拡大や県オリジナル品種の活用



会津地方推進本部について

○会津地方推進本部会議

平成25年12月20日(金)、会津若松市生涯学習総合センターにおいて、「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」会津地方推進本部会議が開催されました。

会津地方推進本部の構成機関・団体の構成員の方々が出席し、会津地方推進本部の設立と平成25年度の事業計画が承認されました。



推進本部会議のようす

○意見交換会

本部会議と併せて農業者、消費者の方々9名にお集まりいただき、本部構成員との意見交換会を開催しました。

<意見発表者及び構成員の発言内容等>

- ・会津大学短期大学部との連携による食品加工、商品づくりの取組について
- ・若い人に対して放射性物質に関する安全性を理解してもらう取組について
- ・今こそ有機農業でふるさとを取り戻す活動をすべき
- ・観光と食を結びつけた取組の重要性、グリーン・ツーリズムの推進について
- ・農業体験による農林水産物に対する魅力を向上させる必要性について
- ・保育所の給食における県産農産物利用の推進について



※上記の他にも、多数の貴重な御意見をいただきました。出席者の皆様、ありがとうございました。



会津地方推進本部長(福島県会津農林事務所長)のあいさつ

「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」会津地方推進本部の立ち上げに当たり、御挨拶を申し上げます。

東日本大震災からまもなく3年を迎えますが、皆様には、それぞれの立場から復興に向けて御尽力いただいております。改めて深く感謝を申し上げます。

農林水産業は、食料の生産や木材の供給、県土の保全、地域を支える伝統文化・里山の継承など、生活になくてはならない、極めて重要な役割を担っております。

しかし、原発事故の影響により、農産物の作付制限や出荷自粛を余儀なくされるなど、本県の農林水産業は、これまで経験したことのない深刻な事態に直面しております。

県では、このような逆境を乗り越え、復興・再生を着実に進めるため、昨年3月に「ふくしま農林水産業新生プラン」を策定し、将来の本県農林水産業のあるべき姿を示して、重点的かつ戦略的に取り組む施策を明らかにしたところです。

この計画の目標達成のためには、農林漁業者の皆様の熱意と行動力はもとより、生産から流通・消費に至る様々な立場の皆様との連携が不可欠です。

この会津地方は本県農林水産業をけん引していく立場にあります。皆様との連携をより一層深め、実りある運動を展開していくことにより、力強い農林水産業の再生を図ってまいりたいと考えておりますので、御支援・御協力をお願い申し上げます。



福島県会津農林事務所
所長 戸井田 和



頑張る農業者の取組紹介①

会津の伝統野菜を通じた地域農業の絆づくり

会津若松市 長谷川純一さん

長谷川純一さんは水稲10ha、野菜60aを栽培しており、野菜はほとんどが会津地方に伝わる伝統野菜です。その種類は余蔘胡瓜(よまききゅうり)、会津丸茄子(あいづまるなす)、会津小菊南瓜(あいづこぎくかぼちゃ)などですが、一般の品種と比較して栽培に手間がかかり、収量も低いことから栽培者が減少してしまい、代々伝えられてきた伝統野菜が途絶えてしまう可能性があります。

そんな時、福島県農業総合センターから種子を譲り受け、少しずつ仲間を増やしながらか栽培に取り組んできています。これらの伝統野菜は地元の学校給食センターを通して学校給食に提供されています。長谷川さんの地域は都市化が進み、非農家が多くなっているため、伝統野菜を通して地域とのつながりや農業への関心を深めてもらいたいという考えで、7年前から小・中学校で出前講座を行って農業のすばらしさを伝えています。



長谷川純一さん
持っているのは会津小菊南瓜



雪下キャベツを収穫する長谷川さん

最近のトピックは会津小菊南瓜を通じたスペインとの交流です。この交流はスペイン大使館とのつながりで始まったものです、スペインも南瓜を栽培し食する国であり、現地で会津小菊南瓜の栽培も始まっています。3月には現地に行き南瓜を通じた会津とスペインの食や文化の交流を図ってくる計画とのことです。

現在は雪下キャベツの収穫の真っ最中です。今年は昨年夏の乾燥の影響で小玉が多かったり、雪が少ないため腐敗してしまうものもあるそうですが、甘みのある雪下キャベツが採れているとのことです。

最後に、長谷川さんからは、「生産者もお互いに連携しながら安全・安心をPRする取組をすすめているので、消費者のみなさんもつながってもらい、福島安全・安心な農産物を広くPRしていただきたい」とメッセージをいただきました。

【雪下野菜について】

会津地方では昔から秋に育てた野菜を雪が降ってもそのままの状態にし、雪の下で生育させたキャベツやカブ、収穫してから雪の中に昔ながらの方法で貯蔵したダイコンやハクサイ等の野菜が雪下野菜として生産されています。

雪下野菜は、雪の下で栽培することにより通常の野菜に比べて甘みが増し美味しいと言われている雪国ならではの栽培方法であり、冬期の農産物として近年注目を集めています。雪国会津では、冬期間に販売できる農産物が少ないことから、道の駅や直売所が増加する中で会津の伝統野菜とともに、今後の生産拡大が期待されています。



頑張る農業者の取組紹介②

ミネラル栽培による野菜づくりを通じた 「見せる農業」の実践

西会津町 渡部佳菜子さん

渡部佳菜子さんは平成23年3月に福島県農業総合センター農業短期大学を卒業し、その後すぐに実家に就農されました。ミネラル栽培による野菜栽培に取り組んでおり、町からのリースを受けて施設栽培にも力を入れています。野菜8ha、水稲3haに取り組んでおり、野菜はキュウリを中心に、トマト、ホワイトコーン、白菜など10種類を栽培しています。



渡部佳菜子さん



収穫体験に訪れた県外の方に
ロマネスコについて話す渡部さん

渡部さんは小さい頃から御両親と一緒にほ場にでては手伝いをしていたことから、小学校の時にはすでに将来は後継者となることを決めていたそうです。現在ではJAの他、道の駅直売所や地元量販店、漬物会社等へ出荷し、野菜生産を通じて多くの皆さんに安全・安心な農産物を届ける取組を実践しています。

今後の目標は「見せる農業」を実践したいとのこと。「見せる農業」とは単に生産物を市場や直売所に出荷するのではなく、消費者、流通業者の方に現場にきていただき、栽培ほ場や人、文化に触れてもらう農業のことであり、そのために花き栽培やグリーン・ツーリズム、農家レストランにも取り組みたいと語ってくれました。

また、農作業を楽しくやるための作業服のデザインにも興味があり、農作業用ファッションのデザインも手掛けて見たいと意欲満々です。

最後に渡部さんからは、「『食べること』は『生きること』であり、日本の食を担っている農業を守っていくために『見せる農業』を進めていきたい。そして実際に西会津町に来ていただき、西会津町のほ場や人や文化を体験していただくことで、西会津町のファンになっていただきたい」と熱いメッセージをいただきました。

【ロマネスコって何??】

ロマネスコはカリフラワーの一品種です。

食用にするつぼみの部分が、黄緑色の円錐形で、味はブロッコリーに似ています。



※事務局では、「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」会津地方かわら版に掲載する情報を募集しております。掲載を希望する情報がありましたら、末頁の【ご意見・お問い合わせ】の連絡先までご連絡ください。

○掲載内容

- ・「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」で展開している4つの運動の取組について
- ・復旧・復興に関するトピックス、イベント情報、旬の話題、オススメ情報等広くお知らせしたい情報



会津農林事務所からのお知らせ①

○「平成25年度 会津地方園芸振興セミナー」開催について

会津地方は、アスパラガス、トマト、キュウリ、トルコギキョウなどの夏秋期中心の園芸産地を形成しており、本県農業の牽引役として期待されています。

しかしながら、農業者の高齢化や新規就農者の減少が顕著であり、地域農業の担い手不足による農業生産力の低下が懸念されていることから、生産者、関係機関・団体が一丸となって担い手育成確保体制を構築し、農業後継者の確保や大規模経営体、農業法人等、多様な担い手を育成していくことが求められています。このため、農業後継者の確保・育成等に関するセミナーを開催します。

- 1 主催 新たなふくしまの未来を拓く園芸振興会津地方推進会議、新たなふくしまの未来を拓く園芸振興南会津地方推進会議、会津地方園芸振興協議会
- 2 日時 平成26年2月13日(木)13:30～16:00
- 3 場所 会津農業共済組合大会議室(河沼郡湯川村大字桜町字森台77)
- 4 内容
 - (1)基調講演「生産部会と関係機関・団体連携による新規就農者の育成」
講師 静岡県JA伊豆の国営農事業部長 太田 静夫 氏
 - (2)事例報告「南郷トマト産地における担い手確保・育成対策について」
講師 会津みなみ農業協同組合 西部地区営農課長 星 晴博 氏
 - (3)事例報告「宿根カスミソウ産地における農業後継者確保の取組み」
講師 昭和村産業建設課長 本名 久喜 氏
- 5 参集者 認定就農者、農業生産法人、各市町村、各JA、全農 等(150名程度)



【農業振興普及部農業振興課】



会津農林事務所からのお知らせ②

○「日本型直接支払」について

農業・農村の多面的機能の維持・発揮を図るため、それを支える地域活動、農業生産活動の継続、環境保全に効果の高い営農を支援することとして、国が平成26年度から実施するものです。

このうち、「多面的機能支払交付金」は、従来の「農地・水保全管理支払交付金」の組替え等により行うものです。

[多面的機能支払交付金]

(1)農地維持支払

農業者等による組織が取り組む、水路の泥上げや農道の砂利補充等の基礎的保全活動や農村の構造変化に対応した体制の拡充・強化等、多面的機能を支える共同活動の支援。

(補助率:定額(田:3,000円/10a)

(2)資源向上支払

地域住民を含む組織が取り組む、水路、農道等の軽微な補修や植栽による景観形成等の農村環境の良好な保全といたった地域資源の質的向上を図る共同活動や、施設の長寿命化のための活動への支援。

(補助率:定額(田(地域資源の質的向上を図る共同活動):2,400円/10a)

(補助率:定額(田(施設の長寿命化のための活動):4,400円/10a)

※農水省 HP から資料が入手できます。

①パンフ「新たな農業・農村政策が始まります!!」

②攻めの農林水産業推進本部とりまとめ「『現場の宝』をみがき、活力ある農林水産業の実現を目指して」

<http://www.maff.go.jp/j/kanbo/saisei/minaoshi/index.html>

【農村整備部農地計画課】



今後の行事(イベント)等

1月28日(火) 喜多方地域鳥獣害対策先進地研修会

場所 : 二本松市西新殿地内現地及び二本松市新殿住民センター
 時間 : 13:15~16:00
 内容

- ①イノシシのくくりわな及び箱わなの設置について(現地研修)
- ②イノシシの生態と対策について

対象 : 管内市町村、JA、市町村有害鳥獣捕獲隊員 等

【喜多方農業普及所】

2014年1月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月13日(木) 平成25年度 第3回 あいづ“まるごと”ネット交流会

場所 : 御蔵入交流館 多目的ホール (南会津町田島字宮本東22)
 時間 : 13:00~16:00
 内容

- ①講演会 「(はたけんぼの取組みと商品開発について)
 (株)ジェイエイあぐりすかがわ岩瀬 はたけんぼ店長 佐藤貞和 氏
- ②求評会

出席者全員により出展商品の試食を行った上で、アドバイザーによる講評及び一般参加者による評価(アンケート)を実施

※現在、参加申込み受付中です。

【会津農林事務所企画部】

2014年2月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3月3日(月) 平成25年度 会津方部有機農業研修会

場所 : 会津農業共済組合 大会議室(湯川村大字桜町字森台77)
 時間 : 13:30~16:30
 内容

- ①基調講演 14:00~15:50(講演90分、質疑応答20分)
 「自然栽培のすすめ」
 国立大学法人弘前大学 農学生命科学部 教授 杉山修一 氏
- ②研修報告 16:00~16:30(報告20分、質疑応答10分)
 「海外派遣研修を終えて~アメリカの有機農場~」
 あいづ有機農法生産組合 玉樹奨平氏(予定)
- ③その他 有機関連資材等の展示

参集者 : 有機農業者、有機農業志向者、会津・南会津管内関係機関、団体、
 流通・加工業者、県立高校(農林・農業系) 等

【会津農林事務所・南会津農林事務所 農業振興普及部】

2014年3月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

【ご意見・お問い合わせ】

会津地方推進本部事務局
 (福島県会津農林事務所企画部地域農林企画課内)
 〒965-8501
 福島県会津若松市追手町7番5号(会津若松合同庁舎2階)
 TEL (0242)29-5369 FAX (0242)29-5389
 E-mail: kikaku.af04@pref.fukushima.lg.jp

